

令和元年5月期 学長記者懇談会

1. 日 時：令和元年5月22日（水） 14：00～15：00
2. 場 所：大学本部棟 4階 第一会議室
3. 次 第：

○懇談事項

- ① 西田学長所信表明資料1
- ② 役員等紹介（学長、理事・副理事、監事）資料2
※自己紹介及び一言ご挨拶

～後方テーブルに移動、歓談～

○本学事業等の紹介

- ① 漫画「琉大創立物語」の発刊について (説明者：小西学長補佐)
- ② 第1回 琉大未来共創フォーラム (説明者：牛窪理事)
- ③ 琉球大学結転生（ゆいまーる）基金について (説明者：福治理事)

4. 本学出席者：

西田学長、木暮理事・副学長、井上理事・副学長、牛窪理事・副学長、福治理事・副学長、嘉目監事、越野副理事・副学長、竹村副理事・副学長、宮尾副理事、小西学長補佐

学長 就任 挨拶

この度、2019年4月1日付で琉球大学第17代学長に就任した西田睦です。琉球大学の強化・発展に全力で努める決意です。

いま世界では、急速なグローバル化やIT化の進行によって、人々の暮らしや政治経済の仕組みが大きく変わり始めています。それらの変化は、国や地域を越えて人々の叡智を集めて、人類の共通課題を解決しようという地球規模の協働をも生み出しています。日本では、人口減少のなか、私たちの生き方・考え方・学び方・働き方などに大きな変革を迫る知識集約型社会への転換が急ピッチで進んでいます。こうした激変期を迎え、政府、財界、そして広く国民から、知と人材の供給を使命とする大学に対して大きな期待の声とともに、厳しい意見も出されています。これらを正面から受け止め、琉球大学はこの激変の時代における大学の果たすべき重要な役割を自覚し、時代に応じた自己変革を遂げつつ、地域社会、国、世界に対してより大きく貢献していかなければなりません。

本学は、亜熱帯の生態系に囲まれた島嶼域において特色ある歴史・文化を育んできた沖縄に立地する総合的な国立大学であること、先の大戦の灰燼の中から地域の人々の熱望により設立された大学であることといった、他大学にはない明確な特色を有しています。地域に根差し地域のためにという米国の「ランドグラント大学」の精神を強く受け継いでいることも、特筆されるべきことです。こうした特色と「自由平等、寛容平和」という建学の精神や伝統を尊重して活かすことによって本学をさらに発展させ、活力と多様性に富んだキャンパスにしていきたいと思えます。私が思い描く琉大キャンパスの近未来は、多くの海外からの留学生を含む多様な学生・教職員・地域の人たちが賑やかに行き交い、額を寄せ合って自由闊達なディスカッションをする姿がいたるところに見える、そんな場です。

その実現に向けて、まず学生が、地球市民としての確かな知識とともに、それを基礎に現代社会における複雑な課題の解決や、合意形成を導く技能・能力を身に付け、自信と高い志を持って巣立つことができる、学生本位の教育を一層強化します。また、迫力を持った魅力ある教育を展開するには活発な研究が必要であり、本学の研究のさらなる活性化に取り組みます。研究から生み出される新たな知はそれ自体で人類への貢献となりますが、研究成果を地域や社会へ還元して地域や産業の振興に貢献することも大学の重要な使命です。研究成果を地域イノベーションに活かす取組や活動を飛躍的に強化します。また本学は、沖縄県における地域医療と医学研究の拠点でもあります。沖縄健康医療拠点構想のもとに取り組んでいる医学部と同附属病院の西普天間住宅地区跡地への移転事業を、国、沖縄県、関係自治体等と力を合わせて着実に推し進めます。さらに、本学の発展に資するこれらの活動を支えるため、外部資金獲得等を通じた財政基盤の強化や、安心安全で多様な構成員が楽しく協働できる、ハラスメントのない環境の一層の整備に取り組んでいきます。

多様な考えと専門性を持った多彩な構成員や関係者の存在は、総合大学である琉球大学にとってまさに創造性の源です。先の見えにくい激変期に、本学がさらなる変革を遂げ大きく前進するには、構成員の皆さんが自己研鑽し知恵と力を出し合って協働すること、そして地域社会をはじめとする学外の多くの方々との相互理解や連携に基づいて、様々なご協力やご支援を得ていくことが不可欠です。これらのことを本学の改革と前進のためのビジョンと実行プランとして取りまとめ、その実現に向けて先頭に立って果敢に実行していきますので、どうかよろしく願いいたします。

琉球大学第17代学長
西田 睦

琉球大学役員等名簿

平成31年4月1日現在

役職等	氏名	任期
学長	西田 睦	H 31 . 4 . 1 ~ R 7 . 3 . 31
理事 (企画・研究担当)	木暮 一啓	H 31 . 4 . 1 ~ R 3 . 3 . 31
理事 (教育・学生支援担当)	井上 章二	H 31 . 4 . 1 ~ R 3 . 3 . 31
理事 (地域・社会連携担当)	牛窪 潔	H 31 . 4 . 1 ~ R 3 . 3 . 31
理事 (附属病院・地域医療・キャンパス移転担当)	大屋 祐輔	H 31 . 4 . 1 ~ R 3 . 3 . 31
理事 (財務・施設・キャンパスマネジメント担当)	福治 友英	H 31 . 4 . 1 ~ R 3 . 3 . 31
副理事 (評価・IR担当)	越野 泰成	H 31 . 4 . 1 ~ R 3 . 3 . 31
副理事 (産学官連携担当)	竹村 明洋	H 31 . 4 . 1 ~ R 3 . 3 . 31
副理事 (法務・コンプライアンス担当)	宮尾 徹	H 31 . 4 . 1 ~ R 3 . 3 . 31
監事	嘉目 克彦	H 28 . 4 . 1 ~
監事	小池 真由美	H 28 . 4 . 1 ~



琉大創立物語

りゅうだいでいそうりつものごたり



地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学

第1回 琉大未来共創フォーラム

Island wisdom, for the world, for the future.

【テーマ】

「芸術に生きる」ということ

おおみね

みく

講演者

大嶺 未来

(ピアニスト)

（略歴）

沖縄県出身。

東京藝術大学附属音楽高校を経て、東京藝術大学在学時に、ワルシャワ・ショパン音楽院（ポーランド）に留学。2006年同校を首席卒業。

2010年ベルリン芸術大学（ドイツ）ディプロマ課程を最優秀の成績で卒業後、

2012年同大学国家演奏家資格課程修了、ドイツ国家演奏家資格取得。

2010年帰国後は東京に拠点をおき、様々なりサイタルで好評を博す。

また、トークコンサート、学校クラスコンサートを全国各地で行っている。

2014年度沖縄タイムス芸術選賞・洋楽邦楽部門にて大賞受賞。

2018年秋より朝日カルチャーセンター新宿にて「ラフマニノフ・ピアノソロ作品全曲解説」（全7回）のレクチャー&コンサートを開講中。

現在、尚美学園大学非常勤講師、各コンクール審査員として後進の指導も行う。



日時

令和元年 6月16日(日)

15:00～17:00 (14:30 開場)

会場

琉球新報ホール

(琉球新報 泉崎本社ビル3階)

フォーラム
概要

- ・ ロッキーチャレンジ賞 授与式
- ・ 第一部 トーク インタビュアー:岡田恵美(教育学部准教授)
- ・ 第二部 記念リサイタル

演奏リスト

【ショパン】

- ・ 「24の前奏曲」op.28より 第15番変ニ長調 『雨だれ』
- ・ ノクターン第13番ハ短調 op.48-1
- ・ ワルツ ヘ長調 op.34-3
- ・ ドン＝ジョバンニ「お手をどうぞ」による変奏曲 変ロ長調

【ラフマニノフ】

- ・ 「幻想小品集」op.3より 第2曲「前奏曲」嬰ハ短調
- ・ 「楽興の時」op.16より 第3曲ロ短調 第4曲ホ短調

【クライスラー(ラフマニノフ編曲)】

- ・ 愛の悲しみ イ短調

入場
無料

ロッキーチャレンジ賞

仲村巖氏(日産ディーゼル元社長)は「外界志向」「志」「チャレンジ精神」をキーワードに前進する人々を応援する基金を2010年に設立しました。第10回ロッキーチャレンジ賞を大嶺氏に授与します。

下記QRコードからでもお申し込みいただけます。



「琉大21世紀フォーラム」は第100回の開催をもちまして、名称を「琉大未来共創フォーラム」に変更しました

お申込・お問い合わせ

琉球大学 総合企画戦略部 地域連携推進課 産学連携推進係

【事前申込 6/13(木)まで】

TEL: 098-895-8031

FAX: 098-895-8185

Email: sangaku@acs.u-ryukyu.ac.jp

第1回 琉大未来共創フォーラム ACCESS MAP 琉球新報ホール

所在地 : 沖縄県那覇市泉崎1丁目10番3号 琉球新報泉崎本社ビル3階

※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください



路線バスをご利用の場合

那覇空港発

- 99番線 : 県庁北口バス停下車 → 徒歩 5分

市内線

- 4・7・10番線 : 県庁北口バス停下車 → 徒歩 5分

モノレールをご利用の場合

- 県庁前駅下車 → 徒歩 4分
- 旭橋駅下車 → 徒歩 4分

車・タクシーをご利用の場合

- 那覇空港から 約20分

※駐車場はございません
近隣のコインパーキングをご利用下さい

第1回 琉大未来共創フォーラム 参加申込書

	企業・団体名	氏名
1		
2		
3		
4		
5		
6		

当日受付にて混雑を避けるため、事前申込みにご協力ください。

ご参加予定の企業・団体名、参加者氏名をご記載の上、**6月13日(木)**までに下記まで、FAXもしくはメール (sangaku@acs.u-ryukyu.ac.jp)にてお申込みください。

【個人情報について】

本フォーラム申込み等で取得した個人情報については、本学の個人情報管理規則に基づき適切に管理し、本フォーラムの参加者への案内・運営以外の目的には使用いたしません。

子どもの貧困対策 支援事業

琉球大学結転生 (ゆいまーる)基金

琉球大学では、喫緊の社会的課題である
貧困の連鎖を防ぎ、豊かな未来へ繋ぐために、
以下の支援事業を行っております。
趣旨にご賛同くださり、皆様の格別の支援を
賜りますようお願い申し上げます。

子どもの貧困率
29.9%
— 全国平均16.3% —

沖縄県

母子家庭のうち
収入200万円未満の世帯率
76.5%
— 全国平均58.1% —
[厚生労働省及び沖縄県調査資料より]

シングルマザー雇用による 経済的自立支援

琉球大学に職員として採用し、実務技能の向上を支援します。

ひとり親世帯の子どもへの就学支援

一般社団法人「大学コンソーシアム沖縄」子どもの居場所学生ボランティアセンター協力のもと、子どもの学習成績向上を支援します。

寄附 方法

オンラインによる寄附

琉球大学基金WEBサイトからクレジットカード決済がご利用いただけます。また、クレジットカードによる継続的なご寄附(毎月/年二回/年一回)も承っております。

口座振込による寄附

口座振込をご希望の方へは、払込取扱票(振込用紙)を送付しますので、琉球大学基金室へメールまたは電話にてご連絡ください。

※本基金へのご寄附は、「寄附金控除」の対象となり、個人からのご寄附は「所得控除」、法人からのご寄附は「全額損金算入」が適用になれます。

お問い合わせ先



琉球大学基金室

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

TEL.098-895-9013 FAX.098-895-8013

✉ kikin@acs.u-ryukyu.ac.jp

🌐 www.kikin.jim.u-ryukyu.ac.jp/



詳細はWEBをご覧ください

琉球大学 ゆいまーる基金



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です





琉球大学結転生(ゆいまーる)基金について

趣意書

1. 沖縄県における子どもの貧困問題について

沖縄県は、全国1位の離婚率(2.53%)、ひとり親世帯のうち、特に母子家庭の世帯率は、全国でも最も高い割合(3.06%)となっています。

母子家庭の年間就労収入は、200万円未満の割合が76.5%と、全国平均(58.1%)より高いことや、非正規職員の従業員比率が全国1位(44.5%)であること及び、非正規職員に占める女性の割合が高いことを鑑みると、沖縄県における母子家庭をめぐる生活環境は、総じて厳しい状況にあります。

そして、この母子家庭の生活レベルの差が沖縄県における子どもの相対的貧困率29.9%となり、全国レベルの約2倍近くの差となる一因となっています。

沖縄県における母子家庭の生活レベルの格差は、子どもの貧困問題を生み出し、さらに、そのまま子どもの教育の格差ともなり、その教育の格差が、その子どもの将来の生活の格差となる、いわば世代を超えて更なる子どもの貧困を引き起こす「貧困の連鎖」という社会問題ともなっています。

2. 地域の問題への琉球大学の挑戦について

沖縄県における子どもの貧困及び貧困の連鎖の問題については、子どもに焦点を当ててその救済策を講ずることが必要であることは言うまでもないことですが、同時に、その世帯の雇用対策やそれに伴う経済格差の是正も大事です。

沖縄県の教育・学術界を担っている、或いは県内において大企業に匹敵する雇用の機会を提供できる琉球大学として、この地域の問題について看過せずに、地域とともに解決に向けて取り組んでまいります。

このため、後述する施策を進めることとしており、そのための財源として「結転生(ゆいまーる)基金」を設けました。

皆様方のご理解とその支援へのご芳志をお願い申し上げます。

実 施 事 業

1 シングル・マザー 母子家庭の母親の雇用創出

年間若干名を、それぞれ5年間の有期雇用の非常勤職員として採用します。労働条件については、週40時間(賞与、種々の手当あり)といたします。また、職員宿舎の入居も可いたします。なお、支度金として5万円程度のスタートアップ支援経費も用意する予定です。

5年間の有期雇用職員の間で何らかの資格を取り、自立の途も図っていただきます。さらに、5年間の勤務において成績優秀なる者については、正規職員への登用の途も図ることとしています。

* 琉球大学附属病院での医療支援スタッフ等での雇用を開始しています。

2 母子家庭の子どもの就学指導

本学も参画している一般社団法人「大学コンソーシアム沖縄」子どもの居場所学生ボランティアセンターの協力を得て、当該子どもの学習成績の向上を図ります。

3 その他

母子家庭の母親を本学の職員として採用するに当たっては、沖縄県母子寡婦福祉連合会の協力を得て、そこから推薦された者のうちから面接等によって採用の可否を決定いたします。

この施策は、当面ひとり親世帯のうち母子家庭の母親(シングル・マザー)に対して行いますが、基金の拡大等となれば、父子家庭も対象とする予定です。

結 転 生 (ゆいまーる) と は

本基金は、子どもの貧困対策としての基金ではありますが、将来の人材への先行投資でもあります。この政策により対象となった子どもの生涯年収が増加し、その子らが将来この結転生基金に寄附していただければ、まさに「結(ゆい)」が連鎖として「転生(まーる)」していくものであり、地域の発展に貢献するものと考えています。